

大鹿中学校歌舞伎公演会

◆公演日時 平成三十年九月三十日(日)

午後一時開演

◆場所 大鹿中学校体育館

◆上演外題

「神靈矢口渡

しんれいやぐちのおたし

八部物語の段」

はちるうものがたりのだん

◆指導 大鹿歌舞伎保存会

◆問い合わせ 大鹿中学校

TEL 0265-39-2220

写真：平成29年度上演：「鎌倉三代記 三浦別れの段」

神靈矢口渡 八郎物語の段

〈あらすじ〉

新田の城には、義興の帰りを待つ妻御台みだいとその子徳寿丸とくじゅまるが、兵庫ノ助の妻湊みなとと夫の戦勝を祈り、待つていた。そこ、兵庫ノ助が主君義興よしむねの怒りに触れ、出陣できずに戦場から帰ってくる。続いて深手を負った湊の弟八郎がやってきて、義興が矢口で戦死したと告げ、主君みぎみ（義興）のあとを追って自害した。

御台は夫の後を追って自害しようとするが、義興の家老で、新田の城の留守を預かっていた南瀬六郎と湊に止められる。そこ、竹沢監物けんもつ率いる敵の大軍が押し寄せってくる。兵庫ノ助は「降伏するほかなし。鎌倉攻めをやめるよう義興様に意見したにも関わらず、それを聞かずに私のことを勘当した。結果、馬鹿大将義興はむざむざ殺されて、新田家にも愛想がつかした。」と、手土産に徳寿丸をさらっていかうとした。それを止めようとした妻湊を、兵庫ノ助は柱にしぼりつける。湊は必死にもがき縄を柱でこすり燃やし切る。

程なく敵將の竹沢監物が躍りこんでくる。兵庫ノ助は降参し、城乗っ取りの手引きを申し出る。湊は御台を落ちのびさせようと長刀で敵と渡り合う。六郎も徳寿丸を抱き大軍を切りたて、城を落ちていくのであった。

〈歌舞伎の楽しみ方〉

その一 入場料は無料です。

その二 役者が登場したときや、役者がポーズを決めたときに「よっ〇〇〇」や「待つてました。」などと言ってみてください。気持ち盛り上がって役者も頑張れます。

その三 おひねりを投げてみましょう。盛り上がる場面でおひねりを投げるのも歌舞伎の楽しみのひとつです。ただし、あまり強く投げないでください。役者に当たると痛いのです。

大鹿中学校への道順

